

審査局 管理企画課

## 松崎 晃大 *Matsuzaki Kodai*

[令和6年4月入局]

管理企画課は、独占禁止法違反被疑事件を調査する審査局の事務の総合調整を担う部署であり、その中で私は、審査局内の窓口としての業務を行っています。また日々の業務としては、審査局としての資料作成や、審査局内の各課室が作成した文書のチェックなど、業務の大半は審査局内の事務が多いですが、このほかにも他部局との調整や国会対応なども行うため、管理企画課は、幅広い経験を積むことができる部署だと思っています。



### 標準的な1日

- 7:30 ● 起床。音楽を流しながら身支度を整えます。
- 9:00 ● 登庁。  
メールチェックをして業務の優先順位を考えます。
- 10:00 ● 登庁してきた係長に前日に作成しておいた資料を確認してもらいます。  
係長の確認を得たら課長補佐、課長へと資料をあげていきます。
- 11:00 ● 審査局内の各課室が作成した書類の文書審査を行います。  
過去例を参考にしつつ、細かい点まで確認しています。
- 12:00 ● お昼休み。  
庁舎内のコンビニでお弁当を買って食べています。  
いつものコンビニにするか迷います。
- 13:00 ● 審査局の各課室からまわってくる様々な原議書を電子決裁で処理します。
- 16:00 ● 総局内からの作業依頼を受け、審査局内に照会するメールを送ります。
- 17:45 ● 改めてメールを確認し、急ぎの案件がなければ退庁します。
- 20:00 ● 上司や友達と飲みに行きます。
- 22:00 ● 家で食事を済ませる場合は、食事後に散歩したり、映画を観たりしています。
- 24:00 ● 就寝。



### 繁忙期の1日

- 7:00 ● 起床。
- 9:00 ● 登庁。  
メールや総局内の掲示板を確認します。
- 10:00 ● 委員会へ報告するための会議資料を作成します。  
誤りがあってはならないため、気合を入れて臨みます。
- 11:00 ● 会議資料の作成中も審査局内外からの問合せがあるため、並行して対応します。
- 12:00 ● お昼休み。地下の食堂に行くか、お弁当を買って食べています。  
お弁当屋も安くおいしいので、おすすめです。
- 13:00 ● 会議資料に記載するデータに矛盾が発生。  
データを上げてきた審査局の担当課室に急いで確認します。
- 15:00 ● 作成した会議資料を取りまとめ、上司に確認を依頼します。  
上司が確認している時間を使って、審査局が翌週に公表する資料(プレスリリース)を確認します。
- 16:00 ● 官房総務課を通じて、国会議員からの問合せを受け、上司とともに最優先で対応します。説明資料を作成するほか、上司が国会議員に説明を行う場同行することもあります。
- 17:00 ● 国会議員からの問合せ対応終了後、中断していた業務を再開します。
- 18:00 ● 上司から会議資料が戻ってきました。追加で確認すべき点や修正点に付箋がたくさん…。めげずに対応していきます。
- 20:00 ● 上司との間で何往復かして、ようやく会議資料がセットになりました。  
委員会に提出する準備を整えます。
- 21:00 ● 日中にたまっていたメールを確認し、翌朝すぐに対応すべき案件を確認してから退庁します。
- 22:00 ● 帰宅後、食事を済ませてからゆっくりお風呂に入ります。
- 24:00 ● 就寝。



OFF TIME

忙しい日が続くこともありますが、基本的には19時頃には退庁できますので、そのような日は、仕事終わりに友人や先輩と飲みに行ったり、好きな映画を観たりしてリフレッシュしています。また、休日は外出したり、公取のサッカー部に参加したりして過ごしています。



官房 人事課

堀田 千央 *Hotta Chihiro*

[令和6年4月入局]

私は官房人事課に所属しており、普段は人事課職員の勤怠管理などの庶務業務を行っています。また、人事課総括係固有の業務として、人事異動や採用に伴う旅費の支給手続も担当しております。ほぼ毎日18時30分過ぎに退庁しており、ひと月に2週間あるかないかの忙しい日でも20時までには退庁できているので、余り負担に感じたことはありません。

課内ではフレックスタイム制度やテレワークを活用している方も多く、休暇も取得しやすい雰囲気のため、働きやすい職場だと思います。



## 標準的な1日

- 5:30 ●起床。  
お昼ご飯の用意や飼っている犬の世話のため、早く起きます。
- 9:30 ●始業。  
メールチェックをします。
- 10:00 ●他課室からの作業依頼を課内に転送します。
- 11:00 ●自課室職員の勤怠管理を行います。
- 12:00 ●昼食。  
地下で同期と食べることが多いです。
- 13:00 ●午後の業務を開始。
- 14:00 ●他課室からの作業依頼に対する回答を提出します。
- 15:00 ●本局内に共有する情報を掲示板に掲載します。
- 16:00 ●決裁を回したり、届いた手紙を仕分けたりします。
- 18:30 ●翌日の業務を整理し、退庁。  
銀座までお散歩をして家族にお土産を買うこともあります。
- 20:00 ●帰宅。  
間に合えば家族と一緒に夕ご飯を食べます。



## 繁忙期の1日

- 5:30 ●起床。
- 9:30 ●始業。  
メールチェックをします。
- 10:00 ●作業依頼を課内に転送しつつ、自分宛に送られてきた書類を確認。疑問点があれば問い合わせをします。
- 10:30 ●上司と打合せ。係内での業務状況について共有します。
- 11:00 ●自分が起案した決裁の状態を確認し、新たな決裁の準備も行います。
- 11:30 ●自課室職員の勤怠管理を行います。通常より確認時間が短いので集中して対応します。
- 12:00 ●昼食。  
同期と話しながら食べることでリフレッシュしています。
- 13:00 ●午後の業務を開始。まずはメールを確認します。
- 14:00 ●他課室からの作業依頼について、対応方法を上司と相談します。
- 15:00 ●担当業務についての問い合わせ対応。すぐに返事ができない場合は上司に相談します。
- 16:00 ●課長に急遽外出予定が入ったため、車を手配します。他の係とも協力して対応します。
- 17:00 ●課内で取りまとめた他課室からの作業依頼に対する回答を提出します。
- 18:15 ●定時。  
合間を見て進めていた決裁に集中します。
- 19:30 ●作業が一段落ついたので、明日の業務を整理し、退庁。
- 21:00 ●帰宅。

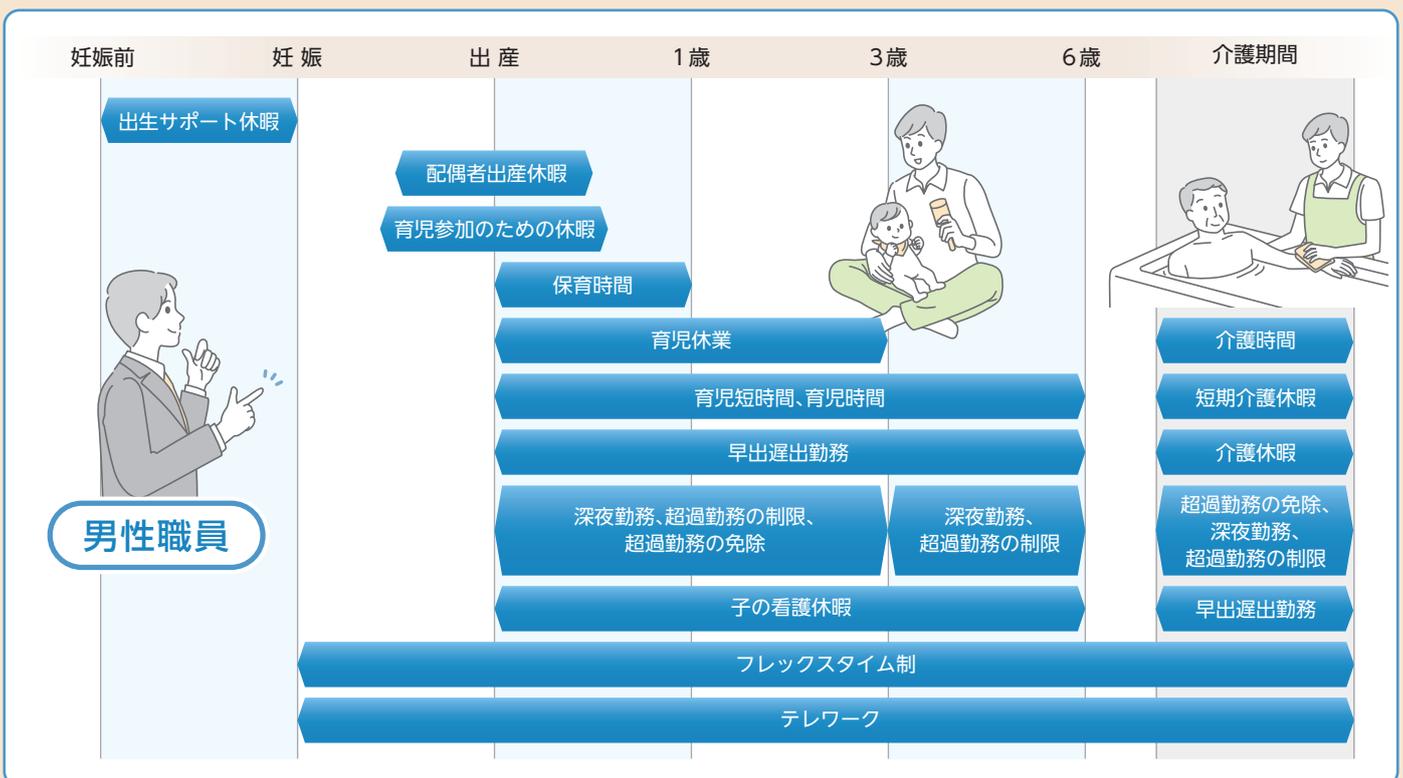
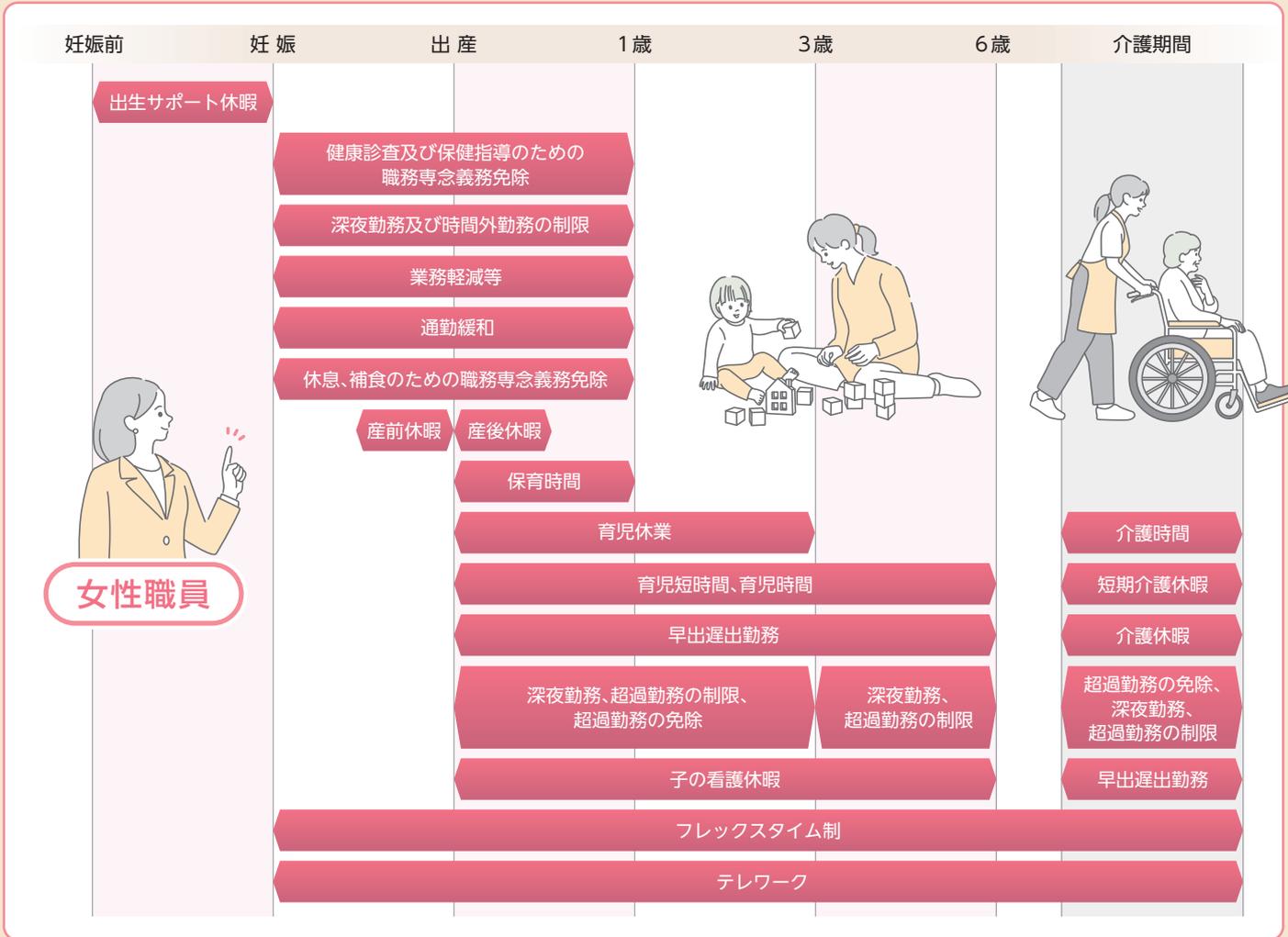


OFF TIME

繁忙期以外の時は、少し早く家を出て、日比谷公園周辺をお散歩したり、早く退庁できた日は、甘いものを買って帰ることもあります。犬を3匹飼っているため、帰宅後や休日は犬たちとゆっくり過ごしてリフレッシュしています。



## 育児・介護の両立支援制度の内容と利用可能期間



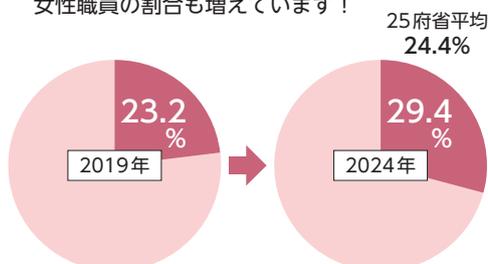
多くの女性が活躍しています！



## 女性職員の活躍

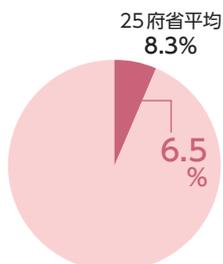
### ● 女性職員の割合

若手になればなるほど女性職員の割合も増えています！

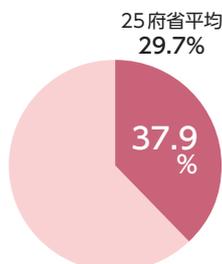


※ 女性国家公務員の登用状況のフォローアップ (2025年1月公表) (2024年7月1日現在)

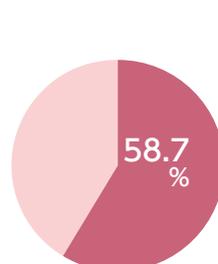
### ● 管理職に占める女性職員の割合 (本省課室長相当職)



### ● 係長に占める女性職員の割合 (本省係長相当職)



### ● 令和6年度採用者の女性職員の割合



## 平均年間総超過勤務時間及び 年次休暇取得日数

### ● 2023年 職員一人当たり

平均年間  
総超過勤務時間  
**247.2**時間

1か月平均  
**20.6**  
時間



配属される部署や時期等によって超過勤務時間は異なります。

### ● 2023年 職員一人当たり

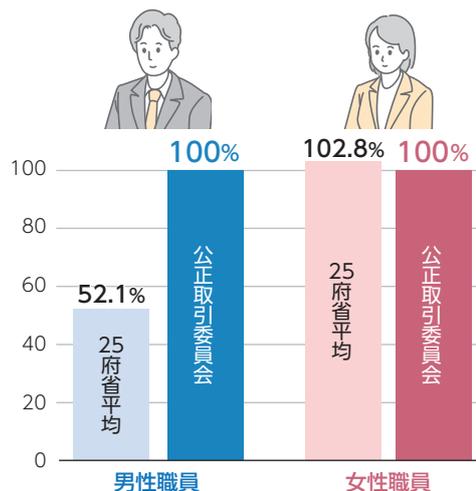
平均年次休暇取得日数  
**15.4**日

夏休みは連続5日以上  
の休暇取得を奨励しています！



## 育児休業の取得割合

### ● 育児休業取得率 (2023年度)



※ 国家公務員の育児休業等の取得状況のフォローアップ (2025年1月公表)

## ワークライフバランス推進のための取組例

### ● 公正取引委員会ではワークライフバランス推進に向けて様々な取組を行っています。

#### 働く女性のための休息室

妊娠・育児などにおけるサポートの一つとして、妊娠中の職員がつわりなどで少し休憩したいとき、育児休業から復帰した職員が搾乳などをするときに、自由に利用できる「働く女性のための休息室」を庁舎内に設置しています。妊娠していなくても、生理が辛いときなどにも利用することもできます。



#### 男性職員の育児参加促進の取組

公正取引委員会の2022年度の男性職員の育児休業取得率は80.0%と政府目標(当時)の30%を大きく上回っています。

公正取引委員会では、職員が妊娠又は配偶者が妊娠した場合に、職員が人事課に出生予定届を提出することになっており、男性職員から出生予定届の提出があると、官房人事課からその職員の管理職に対して、職員が育児参加できるように配慮することや職員の希望を踏まえて育児参加のための休暇や休業の取得計画を作成するように依頼しています。これにより職員は管理職から育児休業等の取得を勧められるなど、育児参加のために育児休業等を取得しやすくなります。

このように公正取引委員会では、男女関係なく仕事と家庭を両立できる環境作りに取り組んでいます。